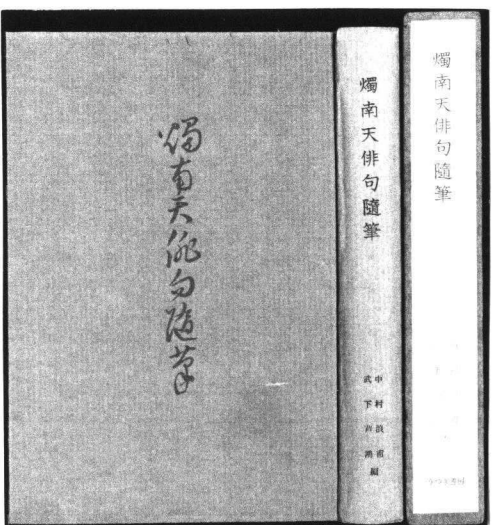


神鞭燭南天 しんべんろうなんてん 俳人。明治二十一年八月十七日東京澁谷区生れ、  
 昭和二十五年四月九日歿（二八六―一九六〇）。本名常泰。別號大江麓、猿  
 樂。政治家神鞭知常の次男。正則中學校時代、級友間で同儕雜誌「紅  
 楓」を發刊、誌上に俳句を發表。明治二十九年第一八高等學校入學、こ  
 の頃俳誌「ホトトギス」に投句し、第二學年の折素琴志田義秀が國文  
 教授として赴任、俳句門下となる。大正二年東京帝國大學法科大學政  
 治學科卒。在學中雜誌「日本及日本人」、俳誌「蝸牛」、コアラレ」  
 等の投句。横濱正金銀行に入り昭和二十年の定年まで銀行員生活。こ  
 の間、大正八年喜多村進、櫻田弘道と「トロイカ」を刊行した他、詩  
 誌「句文」を發表。



燭南天俳句隨筆 (中村浪甫・武下若鷗編) 昭和二十六年二  
 月二十一日神鞭海洋社刊、ウツギ書房(カ)がある。